

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム 春の山		
所在地	〒834-1102 福岡県八女市上陽町北川内182-1		
自己評価作成日	平成25年12月16日	評価結果確定日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム春の山では、入居者、家族にとって良いことを一番に考えるようにしている。毎日を気持ちよく生活していただくために、環境整備(ホーム内・外の清掃)に力をいれている。晴れている日はできるだけ、外へでて太陽の陽を浴び気持ちの良い生活を送っていただけるよう工夫している。面会時間は決めておらず、家族や友人、近所の方が気兼ねなく立ち寄ることができる雰囲気づくりを大切に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム春の山」は「南八女福祉会」を母体とした、山あいの町中にある2ユニットの事業所である。職員全員で「生活の場で何が大事か」を考え、「気持ち良く生活出来、気持ちよく過ごしていく」サービスに取り組んでいる。毎日事業所内外の環境整備に取り組み、1年間継続したことで今では掃除する事が当たり前となり定着し、細かい事にも気配りをして、明るい清潔な事業所となっている。薬に頼らない健康管理を意識し、生活を振り返り、動いて貰う事や食べ物で便秘を改善したり、爛れや痒みが出ない様に紙パンツを布パンツに改善したりと、予防を心掛けて優しい介護を行っている。毎日近隣の散歩を取り入れ、月1回はドライブを行っており外出も多い。H24年開設からの地域との関わりも増え、小学校の「ひまわり応援隊」とのふれあいや中学校の職場体験も受け入れられている。様々な地域との交流も積極的に進められており、今後もさらなる地域活動の取り組みやサービスの充実が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関と各ユニットに掲示している。毎日、朝のミーティング時、理念の唱和を行っている。月1回の定例会では、理念について振り返る機会を設けている。	開設時に管理者達で作成した、「私たちは、ひとりひとりのあるがままを受け止め、意向に沿った生活を支援します」等の独自理念を、職員全員で掘り下げてミーティングで話し合い、理念を意識しながら、入居者に対しての個別ケアを行っている。	
2	(2)	〒834-1102 福岡県八女市上陽町北川内182-1 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員がまず地域の方と気軽に挨拶をかわし、会話ができるように心がけている。近所の図書館や店を利用し、地域の方との交流を図っている。避難訓練には、地域の方に参加していただいている。	毎朝、玄関前を入居者と職員と一緒に掃除し、近隣地域の方との挨拶は日常的に行われている。ボランティア活動のコーラス等を受け入れたり、小学校との交流や、中学校の職場体験の受け入れも行われている。事業所玄関先に設置されたベンチで日光浴が行われ、バス停で待つ方にも、雨宿りや休憩用に使用される様に声掛けを行い、日頃から地域との交流が図られている。	毎朝の近隣地域住民との挨拶は日常化し、気軽な声掛け合いも出来ており、運営推進会議などに民生員や行政区長等の参加もあるが、地域も招いた夏祭り等の行事を開催したり、自治会への入会を検討することで、地域との交流がより深められる事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	満床中で申し込みのみされている家族へは、連絡をとり現状を聞いたり、対応の仕方相談を受けることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催。意見や要望等がでた場合は、すぐに検討している。また、定例会等で全スタッフにも伝えるようにしている。	運営推進会議を開催後に、餅つき等の事業所行事を行い、家族や利用者や民生員や行政区長等の参加もある。地域水害状況の報告を受け、マニュアルの修正や、災害対策委員も設置しており、最近家族からの質疑応答も増え、情報交換の機会としても活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者にも参加していただいている。地域密着型サービス連携会議に参加している。	介護保険の更新申請や相談にも直接、市役所に出掛け、顔見知りの関係の構築は出来ている。市役所で約2カ月に1回程度、地域密着型サービス連携会議が開催され、「感染症等の予防マニュアル」等の勉強会や、各事業所で運営推進会議で工夫している事等の報告も行われており、協力や連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前、ベッド柵4点使用していた方は、経過観察記録をとり、排除することができた。日中、外で気分転換をしたいと出て行かれる方は、自由にでていただいているが、必ず、見守りはしている。	玄関はチャイムを使用し施錠はしておらず、身体拘束も行っていない。帰宅願望の利用者を、職員が毎日、自宅迄連れて行き対応した事例もあり、今は落ち着かれている。気になる職員の言葉掛けも気付いた時に注意し合い、年間研修予定表による定期的な勉強会が行われ、身体拘束しないケアへの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催。チェックリストを活用。		

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が、施設内での職員に勉強会を行った。利用者や家族が必要とした時には、市等に相談しながら支援していきたい。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用されている入居者はいないが、検討中の1名の入居者があり、相談がある時は管理者が対応している。職員へ内部研修も行われており、大まかな理解は出来ており、資料もファイル化して備えている。	外部研修後の内部への伝達研修も定期的に行われ、理解を深める様に研修資料等もファイルされているが、備え付けのパンフレット等が無い為、パンフレット等を備え、説明の簡略化等を図り、理解し易くされる事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に細かく説明を行っている。入居時だけでは、不十分であるため、その都度、説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、必ず近況を報告するように心がけている。意見、要望はすぐに申し送り、検討が必要な内容はすぐに話し合いをしている。	家族の面会が多く、面会時に意見の聞き取りを行い、その都度対応したり、運営会議で意見交換を行い運営に活かされている。運営会議議事録等の開示も行っており、遠方の家族へは月1回程度、電話連絡で報告し、入居者の近況報告も行っている。意見箱の設置はあるがこれまでに意見は入っていなかった。	家族の面会時に意見の聞き取りを行い、運営会議に活かされているが、直接言えない意見等の抽出を行う為に、意見箱を意見を入れ易い様に工夫したり、年1回のアンケートを実施される等の取り組みを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、できるだけ相談しやすい関係づくりを意識している。月1回の定例会では、職員から出された意見を全員で検討し、ケアや運営に反映できるようにしている。	月1回の定例会による協議で、職員の意見や要望に対して、話し合いを行い改善につなげている。職員から相談があれば、いつでも管理者による個別面談が行われ、相談し易い環境であり、年1回職員の自己評価も行われている。	職員からの相談は、管理者が個別面談で対応し、年1回の自己評価が行われているが、自己評価を元にした上長からのコメントや個別面談を行うことで、職員の意見の反映やフィードバックが行われることに今後は期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意・不得意分野を把握し、それぞれに役割を与えている。職員ひとりひとりに声をかけ、それぞれの意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、資格による排除は行っていない。ひとりひとり担当業務をもち、積極的に業務に取り組むことができるようにしている。	採用に関しての制限は無く、20～50歳後半の職員が採用されており、新入職員には副主任が対応し指導している。休憩室で休憩時間は取れており、資格取得や研修参加時や希望休を受け入れて、勤務調整されており、働き易い職場環境である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃から、言葉づかいや接遇について、気になることがあれば、その都度伝えるようにしている。	新入職員の採用時は、倫理研修を行っている。接遇マニュアルに添って、言葉遣い等は、その都度管理者や職員間で注意を行っており、実務者研修に参加職員の資料を全職員へ回覧している。	職員採用時は倫理研修を行い、毎年の実務者研修の資料を全職員へ回覧しているが、今後は実務者研修に参加した職員による、内部への伝達研修を行ったり、市の人権週間やDVD等を参考にし、勉強会等を開催される事を期待したい。

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会や外部の勉強会に積極的に参加できるように工夫している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携会議や部会の勉強会などに参加し、交流する機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、できるだけ本人にも見学に来ていただくようにしている。入居前の聞き取りは管理者、入居後の聞き取りは、管理者、計画作成者を中心に、職員全員で行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から、家族との会話を大切にしている。何気ない会話の中から要望などを探りだし、ケアプランにつなげる努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族の相談にじっくり時間をかけている。本人と家族の考えが違い話し合いを続けた結果、在宅生活継続となった方もおられる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を必ず確認するようにしている。毎日のことであっても、お互いが気持ちよく声をかけあっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会も多いため、近況を報告している。施設側で何でも決定してしまわずに、家族の意見をとりいれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅生活困難な方でも、自宅に帰りたいと強く望まれている方には、家族と話し合いをし、短時間の外出から開始している。	家族の面会も多く、馴染みの美容室や病院に通われている入居者もおられ、入居者の近所の方の来訪もある。入居者の希望で、ドライブ時に自宅近くに寄ったり、遠方の家族には電話や手紙で連絡を行い、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	家族の面会も多く、近所の方の来訪もあるが、事業所日より等の発行が無い為、請求書送付時等に簡単な文書で、入居者の近況報告を行い、家族の支援や連携の継続を行われてみてはどうか。

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとりひとり性格やこれまでの生活習慣が異なるため、トラブルになることもある。しかし、孤立しないように職員が間に入って関係を良好に保つことができています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、医療機関等で会うこともあり、近況を伺うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、計画作成担当者を中心に、担当がアセスメントしている。	入居時に生活歴のアセスメントを行い、退院時は病院で、状態やケア内容の情報収集を、医師等に直接聞き取り、ケアに反映させている。意向の確認の難しい利用者は、家族に協力してもらったり、毎日の態度や行動や表情から汲み取り、全職員で協議し、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族からの聞き取りを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りを確実にし、職員全員が現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングし、ケアプランにかかしている。また、本人や家族の意見等は普段の会話の中からも探っている。	職員1名で2~3名の入居者を担当し、独自のモニタリング表で毎日ケアチェックし記入しており、月1回のケアカンファレンス会議で見直しを行っている。状態変化時や3か月に1回、見直しを行い、再アセスメントを行い、新たな介護計画表を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動など細かく記録している。その記録をもとに計画作成している。		

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	テキスト等の通りではなく、ひとりひとりの性格や状態にあったケアを探る習慣をつけ、臨機応変に対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとり出来る事、得意なことを発揮できるようにしている。又、できるためには、どのような支援が必要かも見極めるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診されている方もおられる。ホームのすぐ横に協力医療機関があるが、本人や家族が希望されかかりつけ医を変更されることもある。	入居前からの掛り付け医を家族付添いで受診されている入居者もいる。事業所横の協力提携医の受診時は、職員付き添いで受診され、施設内で予防接種も行われている。受診後、家族には電話や面会時に報告し、申し送り簿、個人記録に記載して、申し送りで事業所内での情報共有と状態の把握につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が介護業務に積極的にはいり把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会に行き、病棟看護師やSWより情報収集している。また、家族とも連絡をとり意向なども聞き取りをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を全入居者、家族に説明し、意向を確認している。	昨年、事業所内で看取りの経験をしており、看取りの勉強会を行い、ケアの内容等を話し合い確認しながら対応している。家族や職員にも重度化の指針の説明を行っており、今後も看取りは受け入れて行く方針である。	看取りを行い、その時に看取りの勉強会も行っているが、その後の勉強会は行えておらず、反省点も出て来ている状況との事。今後も看取りを行って行く方針の為、定期的な基本的な研修会を行ない、さらなる尊厳ある支援の取り組みが行われて行く事を期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の講習に参加し、終了した職員が勉強会を行っている。		

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。前回うまくいかなかったことなどを振り返り、次の訓練では工夫をしている。 地域の方に参加していただいた訓練も実施している。	年2回、消防署立会い等で昼夜想定しての避難訓練を行っている。水害等も考慮し、マニュアルの見直しや避難場所の再確認も行っており、備蓄も缶詰、乾麺、カセットコンロ等を整えている。	年2回の避難訓練や、マニュアル等を見直しが行われているが、さらに緊急時にすぐ活用出来る様に、避難の手順書と地域住民の連絡網を作成し、すぐ確認出来る所に置き、職員間の定期的な確認が行われ、災害時に備えられる事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前に生活歴や性格などを聞き取り、それを全スタッフに伝えることで敬意をもった対応につなげている。 また、これまでの生活歴や性格がそれぞれであるため対応をひとりひとり工夫している。	個人情報保護の方針についての同意も得ており、年1回の定期的な内部研修も行っている。言葉掛けも全職員間で注意し合っており、女性入居者の入浴時の介助時に男性職員を拒まれる方には、女性職員で対応し入居者本位に対応している。	定期的な内部研修も行い、日常的な言葉掛けも職員間で注意し合い取り組まれているが、利用者の写真掲示の同意を得ていない状況で、居室内のみの掲示に留められている。今後、入居者の写真使用の同意を取られ、事業所共有部分にも笑顔の写真が掲示される事が望まれる
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと傾聴している。自己決定できるようにコミュニケーションのと리카た(質問の仕方)を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合を優先しないようにという事は、日頃から意識している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分で選択して更衣される方もおられる。職員が数枚選んだ中から決定される方もおられる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の入居者が多いため、これまで毎日のように行ってきた調理や片づけには参加していただき、出来る事をうばわないようにしている。又、準備から関わることで食事が楽しみとなるようにしている。	事業所本部の栄養士が作成した献立表を元に、入居者がプランターで育てた野菜等も取り入れ、少し献立を変更し、調理師免許を持った職員等で調理している。入居者も切ったり皮むき等の出来る事を手伝い、月1回は入居者も参加して手作りのおやつを作ったり、季節の行事食もある。コーヒー、紅茶、ココア等の好きな飲み物も毎日提供され工夫されている。	季節の行事食も取り入れられ、工夫されているが、月1回のドライブ時はおやつを食べる程度で、外食は行われていない為、今後は食事の楽しみを増やす為にも、個別援助等で外食の機会を作られる事を期待したい。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの献立をもとに調理師の資格をもつ介護職員が工夫して調理している。毎食の食事摂取量から食事量を調整することもある。		

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者、毎食後口腔ケアを実施している。自分でできる事はしてもらい、あとから不十分な所を介助することもある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、オムツ使用から綿パンツへの戻すこともある。今後も、現在はオムツ使用であっても、工夫次第で除去する努力を継続したい。	排泄チェック表を作成してパターンを把握し、尿意の無い入居者も、時間毎の誘導で、日中は汚染や失敗も無くなった。リハビリパンツとパット使用の入居者が、日中は布パンツとパット使用となり、パット汚染も無くなり陰部の爛れも改善しており、自立支援に向けた取り組みが日常的に行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫したり、活動量を増やしたりしている。それでも、便秘になる方には薬に頼ることもある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	平日毎日入浴される方もいる。特に希望がない方は、体調等で調整している。時間帯は、午前中に偏っているが、今ははいりたくない、という希望が出た場合は、午後に変更するなど臨機応変に対応している。	月曜除く毎日9時～4時迄の入浴で、好みのシャンプーや石鹸の持ち込みも出来る。個浴で貯め流し方式で入浴剤等も使用され、一番風呂希望の入居者にも対応している。女性入居者の入浴介助に男性職員を拒まれる方には、女性職員で対応しており、入浴を拒まれる方には、時間をずらしたり、職員を替えて声掛けを行い、無理強いすることもない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとり、昼寝や夜間の就寝時間は異なる。夜間の睡眠を考えて昼寝を調整することもある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局に相談している。処方薬は変更時には、薬情報を全スタッフが確認できるように更新している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり得意なこと等を聞き取り、入居しても継続できるように支援している。		

H25自己・外部評価表(GH春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望を全て叶えることは難しいが、家族の協力を得て住み慣れた自宅に外出される方も多い。 外出行事では、入居者からの希望を聞いて計画立案することもある。	毎日の日課に散歩を取り入れており、散歩帰りや受診帰りに、近くの大型園芸店や土曜市に買い物に寄っている。月1回程度は花見等のドライブへ外出し、年3回は本部よりリフト車を借りて全員で外出しており、外出の機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者、通帳や現金の管理は家族管理であるが、少額を手元に持たれている方もいる。それを、外出時使用される方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を受けることが多いが、本人からの希望も支援している。 本人が、家族に伝えたいことを忘れないようにメモを残し、面会時家族に見ていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場、日当たりがよすぎて高温になる居室にはすだれを活用したり、方角によって配慮している。 季節の花や折り紙等で作成した物などを飾り、季節を感じていただける工夫をしている。	左右対称の2ユニットの事業所で、事業所の中央に吹き抜けのテラスデッキがあり、回廊式になっており、広い廊下の両側に手摺りが設置されているため、毎日回廊周りを日課に歩行練習されている入居者もいる。廊下には職員の顔写真や、行事予定表が掲げられ、ホールの窓ガラスには、コスモスや紅葉の切り絵が飾られ、明るい、ゆったりと過ごせる雰囲気づくりが行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場であっても、それぞれの趣味活動を自由にとりいれている。 ユニットが違っていても、廊下散歩中に別ユニットに自由にたちより過ごしていただいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に相談しながら、必要な物を持ち込んでいただいている。 面会時、家族より写真や置物など持参あり、好みで飾っていただいている。	各部屋の名札にはダルマと扇子の折り紙が飾られ、季節により折り紙が替えられている。備え付けのテレビ台やクローゼットがあり、床も持ち込みで畳に変更する事もできる。各部屋の壁にコルクボードが置かれ、写真が沢山飾られ、ぬいぐるみや位牌等の馴染みの物が持ち込まれており、持ち込みは自由である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープン当初から必要箇所に追加して手すりの設置を行っている。又、気づきを大切に、ちょっとしたことを工夫することで自立につながるがあれば、意見をだし改善している。		